

東北大学大学院歯学研究科 インターフェイス口腔健康科学 第64回学術フォーラム

Forum for Interface Oral Health Science

インプラント治療目標の定式化と 治療設計の最適化について

井汲 憲治 先生

一般社団法人日本インプラント臨床研究会 施設長
(公益社団法人口腔インプラント学会指定研修施設)
群馬県高崎市開業

平成24年12月6日 (木) 17:00~18:30
歯学部B1講義室(B棟1階)

抄録 保存修復から補綴治療・矯正治療にいたるまで歯科治療全般において“審美”と“機能”は両立し調和しなければならず、この原則が歯科医療を特徴づけている。また、インプラント体の形状や表面性状の改良、インプラント周囲の硬・軟組織の再生術式の発達により、現在では難症例においても審美と機能の両方の性能を著しく向上させるような対応が可能となっている。しかし、全顎的に極度に吸収した顎堤を以前の状態にまで骨を造成し、元と同様な歯をインプラントによって再構築することは、理論上は可能であっても患者にとって現実的な治療方針とは言えない。一方、骨造成を回避し少ない本数のインプラントで全顎的な治療を行うという考えを主張するグループもある。同一症例に異なった治療計画が成立し得る混沌とした状況の中、インプラント治療における審美と機能の両立や調和とは何なのか、そして、どのような治療目標に向かってインプラント治療計画を立案すべきかについて改めて整理してみる時期ではないだろうか？今回、この問いに対して最適デザインの概念を応用することによりインプラント治療目標の定式化を試み、治療計画の最適化(optimization)の可能性について解説する予定である。

第64回モデレーター: 小山重人(顎顔面口腔再建治療部)